

## 【研修報告】

## 第16回欧州呼吸器学会（ミュンヘン）に参加して

川根 博 司\*

## はじめに

第16回欧州呼吸器学会年次集会(The 16th Annual Congress of European Respiratory Society; ERS 2006)は2006年9月2日から6日までドイツ・ミュンヘンで開催された。今回の学会には5,000題以上の投稿のうち4,221の抄録が受理され、世界各国から17,240人の参加者があったという。ミュンヘンといえば「昼間からビール」は定番と聞いていたが、学会会場となったミュンヘン国際会議場(写真1)の中庭に設けられた臨時レストランでも、昼食時にビールを楽しむ人の姿がよく見られた。午後からの発表があるにもかかわらず、筆者も「郷に入っては郷に従え」とヴァイツェン(大麦ではなく小麦を原料としたビール)のグラスを傾けたが、いつもよりも英語がスムーズに喋れたような気がする。

今回、筆者は学会3日目の月曜日・午後のポスターセッションにおいて、「日本医師会における喫煙対策への取り組み」を発表した(写真2)ので、その概要を紹介する。

## 発表内容

筆者は1997年と2001年に全国の都道府県医師会における喫煙対策への取り組みについてアンケート調査を実施し、学会などで発表するとともに学術誌にも報告してきた(川根, 1998; 川根, 2002)。その後、日本呼吸器学会や日本医師会だけでなく、多く

の保健医療団体から禁煙宣言が出されており、タバコ規制への動きが加速されるようになった。そこで、都道府県医師会における喫煙対策への取り組みの現状を知るため、2005年9月下旬に過去2回と同様のアンケート調査を行った。

47都道府県医師会のうち46医師会から回答があった(回収率97.9%)。喫煙対策に取り組んでいるのは44医師会(95.7%)であり、取り組んでいないのは2医師会のみであった。喫煙対策に取り組んでいる44医師会のうち35医師会(79.5%)が精力的に活動していたが、喫煙対策委員会のような専門組織があるのは19医師会(43.2%)であった。

医師会館内での喫煙規制は46医師会(100%)でなされていたが、敷地内禁煙が19医師会(41.3%)、全館禁煙が27医師会(58.7%)であり、分煙はゼロであった。そして、会議中は禁煙となっているのも46医師会であり、すべての医師会において無煙環境(スモークフリー)での会議が行われていた。

日本の喫煙対策が遅れているのは、社会的・政治的問題もあるわけであるが、まずヘルスプロフェッショナルとして国民の健康を守るべき医師の活動が大切であり、その職能団体である医師会の役割も非常に重要である。喫煙対策に取り組んでいる都道府県医師会は、1997年にはまだ少なかったが、今回のアンケート調査では2001年に比べても著明に増加しており、ほとんどの医師会が喫煙対策に取り組んで



写真1 学会場入り口にて

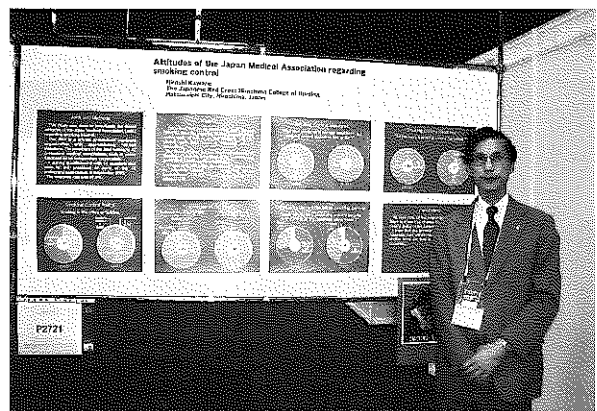


写真2 ポスター発表

\* 日本赤十字広島看護大学 kawane@jrhc.n.ac.jp

いるといっても過言ではない。今後は、禁煙キャンペーンを展開している日本医師会とともに、包括的なタバコ規制対策の推進に向けて、より積極的な取り組みが期待される。

なお、詳細については、過去2回の調査研究と同様に日本医事新報誌上において報告した(川根, 2006)。また、ERS 2006で発表した演題の要旨は、学会誌・増刊号に英文抄録が掲載されていることを記しておく(Kawane, 2006)。

### おわりに

欧州呼吸器学会への参加は今回で8回目になる。国際学会参加の意義は、多くの優れた発表・報告を聴くことによる新知見や情報の収集と習得、そしてロビーでの率直な意見交換、知人と旧交を温めることなどであろう。しかし、いくら国際学会参加が目的であっても、ホテルと会場の往復のみで帰国するのはもったいないと考えるのが普通であり、いわゆる名所旧跡巡りや、街並み散策、名物料理の食べ歩きなどを楽しんでくる人も多い。筆者は学会の合間にはその地の有名な美術館を訪れるようにしているが、ミュンヘンに行く前からアルテ・ピナコテークとノイエ・ピナコテークは必見と思っていた。

今回の学会主催者はミュージアム・ナイトと称して、上記2美術館のほかピナコテーク・デア・モデルネを9月4日(月)の夜間(19:30~23:00)に特別開館し、学会参加者だけが無料で入場できるという粋な計らいをしてくれていた。ちなみに、アルテ・ピナコテークは14~18世紀の欧州絵画を収集する世界的な美術館であり、ノイエ・ピナコテークには印象派など欧州近代絵画を中心に展示してある。お陰で好きな絵の前ではゆっくり時間をかけて、いろいろな名画を鑑賞することができた。写真3はブリューゲル作「怠け者の天国」の横に立ち、「帰国後は今日のように昼間からビールというわけにはいかないな」



写真3 ブリューゲル作品(アルテ・ピナコテークにて)



写真4 ミュンヘン中央駅の禁煙マーク

と自戒しつつ眺めているところである。ピナコテーク・デア・モデルネは館内には入らなかったが、芸術、建築、デザイン、グラフィックの4部門からなるヨーロッパ最大の現代美術館ということである。

ところで、「たばこ規制枠組み条約」(2005年2月27日発効)が策定された際に、タバコ輸出の米国とタバコ容認主義の日独の3国は、新「悪の枢軸」とまで呼ばれたことがあった。そのためかミュンヘンでは、他の欧米先進国では見られない街中のタバコ自動販売機が、日本ほどは目立たないものの、探せば各所で見受けられた。ミュンヘン中央駅のコンコースの一角にもタバコ自動販売機が設置してあったが、もちろん公共の場である駅構内は禁煙になっており、天井からは大きな禁煙マークの垂れ幕が吊り下げられていた(写真4)。

ドイツ・ミュンヘンのタバコ事情を知ることができたことも今回の旅の収穫であった。

### 謝 辞

今回の国際学会に出席する機会を与えて下さいました本大学および関係者の方々に感謝いたします。

### 文 献

- 川根博司(1998). 都道府県医師会における喫煙対策への取り組み—アンケート調査結果から—. *日本医事新報*, 3883, 43-46.
- 川根博司(2002). 都道府県医師会における喫煙対策への取り組み(第2報)—アンケート調査結果から—. *日本医事新報*, 4077, 29-32.
- 川根博司(2006). 都道府県医師会における喫煙対策への取り組み(第3報)—アンケート調査結果から—. *日本医事新報*, 4304, 66-69.
- Kawane, H. (2006). Attitudes of the Japan Medical Association regarding smoking control. *European Respiratory Journal*, 28, 470s.